

地域活性化という「遊び」⑨

京都市府
福知山市 「みわ・ダツシュ村」から

山本晋也

教えようという意思なんてないのに
おばあちゃんが教えてくれる大切なこと

「もしもし、おはようさん。
明日ちょっと農協まで
乗せてくれてかい？」
まーなんとも可愛らしい声で
月に何度か電話がなります。
電話の主は数年前

おじいちゃんが亡くなって
一人暮らしになったおばあちゃん。
「いよいよ」
僕らはこういふときのために
農協や郵便局に行く用事を
ためておきます。

逆に
「明日農協に行くけど、
おばあちゃん乗って行く？」
とこちらから
電話することもありません。
農協までは10キロ
市バスも走ってますが
バス停まではなんと4キロ
普段から手押し車を押している
おばあちゃんには無理な距離です。

農協に行つて用事を済ませて
農協の隣にあるコンビニで
いっしょについてきた長女の元気に
お菓子を買ってもらうというのが
おきまりのコース
僕らとしては
足のこともあるけれど
一人で年金暮らしのおばあちゃんに
バス代を節約してもらおうと
思っているのに
なんだかバス代以上に
お金がかかっているような気がして
なんども断っていたのですが
ある日おばあちゃんか
子供にお菓子をかうというのを
毎回楽しみにしている
ということに気がついて
断ることをやめました。
どちらかというとう
お菓子は市販のもの買わずに
手作りが基本



おばあちゃんとはすっかり仲良しで、なんかもう他人という感じがしません



ぬいぐるみを作ってます

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかたわらオーガニックレストランを経営するも食材を種から作ってみたいとなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダツシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人々が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダツシュ村副村長。



出来上がったぬいぐるみは次の日友達にあげてしまいました

というのが我が家の方針ですがおばあちゃんのおかげで

自分で作るという喜びに加え人からものをいただくという喜びもわかるようになりました。

親以外の人から

ものをいただくということは子供にとってとても嬉しく

そういう経験をすると

自分も誰かに何かしてあげたいという気持ちになるようです。

おかげさまで

なんでも全部自分のものにしたがったり

三男とおもちゃの取り合いをしていた長女も

おばあちゃんに

自分の分のお菓子を持って行ったり何日もかかって自分で作って

大事にしていたぬいぐるみを

友達にヒョイっとあげてしまったりするようにになりました。

親や先生はついつい言葉で

「欲張ってはいけません」

「みんなで分けましょう」

「取り合いしてはいけません」

と頭から言い聞かせようとしますがただただ無償の愛を子供に与える

ということ

「欲張らないで分ける」

ということの気持ち良さを

知らないうちに子供に教えてしまっ

のは神業というか

余計な欲のなくなったお年寄り

なくてはできないような気もします。

当のおばあちゃんに教えてやろう

などという意思是

全くないと思えますが

そこがまた

素晴らしいところでしょう。

そういう気づきという意味では

20数年前アフリカを旅していた時に

よく似た経験をしました。

発展途上国はバスが1日1本とか

悪くすると数日に1本とか

日本の過疎地以上に

交通網が発達していいないので

バスを逃したりした僕が

仕方なく歩いていると

行く方向が同じだからと

トラックの荷台に乗せてくれたり

その途中でお茶や食べ物まで

ご馳走してくれたり

家に泊めてくれたり

言葉も通じない見ず知らずの人が

なんでそこまで親切にできるの？

というくらいの経験を

何度もしました。

帰国後

外国人の旅人を見かけると

やはり同じことを

してあげたくなったのは

言うまでもありません。

そして

アフリカとは比べもの

にならないくらい発達を極めた

日本のバスや電車は

とてもありがたいと思いましたが

「お年寄りや体の不自由な方に席を

譲りましょう」

という車内アナウンスには

日本ではそんな当たり前のことを

わざわざ放送するのとかと

なんとも言えない違和感を

感じたものです。

「限界集落のような小さな社会では

子供に社会性が

身につかないのでは？」

とよく聞かれますが

子供の社会性や道徳の

基本の「き」は、社会の大小問わず

自分たちが暮らすコミュニティで

の日常の小さな出来事を大切にして

みることで

十分学ぶことができますよ。

どちらかという

小さな社会の方がそういう部分には

目を向けやすいかもしれません。



おばあちゃんにおみかんもらって大喜び



もちろんおじいちゃんとも仲よし